

平成25年度第1回名張市快適環境審議会会議録(概要)

1.開催日時 平成25年11月5日(火曜日)14時~16時40分

2.開催場所 名張市役所2階 庁議室

3.出席者

委員 加藤 進  
田中 正一  
谷口 智雅  
朴 恵淑  
井村 欣弘  
井川 敏雄  
田畑 博  
坪田 公兒  
平井 行夫  
細川 博通  
吉井 和代  
吉岡 正夫

事務局 生活環境部長 夏秋 佳生  
生活環境部理事 藤岡 善光  
生活環境政策室長 石田 圭二  
環境対策室長 名和 健治  
環境保全担当室長 藤野 泰司  
伊賀南部環境衛生組合  
業務室長 酒井 隆郎  
環境対策室 室員 立山 学  
環境対策室 室員 平尾 美津代

4.欠席者 委員 三上 章

5.内容

- (1)名張市グリーンエネルギービジョン(案)について
- (2)第二次なばり快適環境プラン実行計画の成果報告について
- (3)平成24年度名張市EMS取組状況報告について
- (4)名張市環境マネジメントシステムについて
- (5)その他

(1)名張市グリーンエネルギービジョン(案)について

会長

議事進行させていただく前に、簡単ではありますが、かなり重い責任を感じておりますので、会長として皆さんに協力をお願いしたいということと、副会長になった三重大の先生からも一言述べさせていただきます。いただいた上で、議事進行に入らせていただこうと思います。

まず、私朴のほうから皆様に是非お願いしたいところについて話をさせていただきます。何々市の環境プランとか実行計画というようにあっさりしたネーミングが多い中で、名張市はいち早く「快適環境」というとてもステキな素晴らしい、誰もが何のために環境プランをつくるのかということ、この表紙を見るだけでもわかるような工夫をしているところが非常にいいイメージを持ってますし、快適な環境をつくるために皆でがんばりましょうということがわかるような、皆さんの素晴らしい考え方にいつも関心をしておりました。策定されたのが19年ですから、その間に、東日本大震災を始め、刻々と時代も変わっていく中で、おそらく基本的な考え方は素晴らしくて変わらないと思いますが、どのようにして快適環境名張をつくるのかという方法論においては、若干強弱を付けてメリハリを付けながら、時にはスピード感のあるような形で、時には皆さんとじっくり腰を据えて話をさせていただくという姿勢で、審議会が運営できればいいなと思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。

副会長

三重大の谷口と申します。三重大学に来てから3年になりますので、まだまだ名張も含めて三重のことを十分に理解していないところが多分にあります。今回、審議会委員にさせていただいて、且つ副会長に指名していただき、皆さんと共にいい提言等ができればと思いますのでよろしく願いいたします。

会長

ありがとうございました。早速ですが、事項書に基づき議題を進行させていただきます。まず、今日の議題は4つ。その他まで入れると5つになりますが順番で進めさせていただきます。その1つ、名張市グリーンエネルギービジョンについて(案)になっておりますけれども、まず事務局から大まかな説明をいただき、皆さんのご質問をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

事務局

『名張市グリーンエネルギービジョン概要版(案)』に基づき説明

会長

1月に策定は無理です。まず皆さんからの率直な意見をいただきたいと思います。本気でやりたいのであれば、私たちにある程度のデータ、元になる根拠がどこにあるのかということと、どこが強みで、どこが名張市の弱みなのかある程度聞かせいただいて、そこで私たちがどういうことをやればいいのかということがある程度見えないと、例えば1ヶ月に1回ではなく何回もやるなら可能かと思いますが、今のような形で、1ヶ月に1回というペースでそれを出すのはナンセンスもいいところだと思います。できる方法を考えないといけないので、まず幾つか、皆さんの意見を聞く前に、基本的な情報共有をしたいので教えてほしい。

まず3ページのところで、名張市にはいろんな構想とかビジョンがあります。その中で、このエネルギー問題は特に温暖化と直結しており、名張市は温暖化対策実行計画をつくっていて、まず何年度までに何年度比で何パーセントの二酸化炭素を減らそうとしているのか。また、それぞれのセクター、製造

業、民生部門、運輸、その他もろもろ、今現在、名張市の場合は平均的なものと考えていいのか、名張の特殊な何かあるのか。公共交通機関があまり発達していない地域において、運輸部門においては、今現在どのくらいの二酸化炭素を出して、エネルギー使っているのか。まず実行計画のおおまかな目標年度と基準年度、何パーセントくらいをどの部門でどのくらいを減らして、目標を達成しようとしているのかを教えてください。

それから、バイオマスタウン構想はどうなっているのか。前からいい取組だと思って聞いていたが、どのくらい進捗しているのか。それを教えていただかないとこれだけでは判断できない。それと、産業振興ビジョンにおいては、それぞれの事業者が、どれだけ努力をして二酸化炭素なりエネルギー消費なり、或いは、創エネでメガソーラー設置などの見込みはあるのかどうか。そういう基本的なところを、まず既存のものの中から教えていただきたいのが1点。

それから国はあてになりません。今大変な状況だから3.8パーセントと、エネルギーの供給の面において原子力と、そういう話になってきました。一時には、2020年まで25パーセント減らすと言ったが、なかなか環境面で厳しくなっている中で、どう合わせてみようとしているのか。

その中で、三重県の温暖化防止実行計画は、2020年まで、2005年比で、20パーセント減らすという大変野心的なものを出しています。これは厳しいものでありますが、実際に数値目標で、何をどうすればできるのかということやをなんで参考にしないのか。ここになぜ挙がってないのか。そういうところをまず聞きたい。

それで、最終的に名張市グリーンエネルギービジョンというものは、数値目標一切なしで、5年間、あれやるこれやるということだけで議会を通れるのか、通すのか。そういったところの積み上げたものがなければ我々は議論が出来ない。今日何かデータが出るかと思ったら、全くデータがなしで、これを机の上で議論をして下さい、というものにすぎない。まず名張市の地球温暖化防止計画はどうなっているのか。バイオマスタウン構想はどうなっているのか。産業振興ビジョンはどうなっているのか。そこでまた国がこのような現状の中で、県のものでかなり上積みできるものもあります。また、名張らしさというところの施策はどこだ。そこが出ていかないと、スマートコミュニティというのは、言葉があまりにもいいために、皆がその言葉に溺れてしまう。だから、メリハリをどこでつけるのか、より突っ込んだ話をさせていただかないとかなり厳しいと私は感じました。副会長どう思われましたか。

副会長

朴先生がおっしゃるように、概要版で説明していただいたが、本当に概要だけで名張市としてどういった方向でしたいのか、現状も含めて見直して提示していただかないと議論ができない。国の一般的なものしか書かれてないので、本当に、具体的なものを示していただきたいと思います。

会長

ありがとうございました。ここに若干時間を使いたいと思っておりますので、皆さん、問題、意見を出して下さい。

委員

冊子全部、隅から隅までチェックを1週間かけさせていただきました。今会長からお話があったように、良く言えば、異様に網羅された概要、いろんな面から漏れなく国の施策及び県及び市というのを連携しながら、優等生の作文でございます。しかし悪く見ると総花的であって、今会長がおっしゃったように、今現状がこれで、これだけをどうするのと。技術開発なんて市でできるわけでもない。快適環境の評価というのが後で出てきます。これは全項目ものすごく多いですが、目標値設定がほとんど作文で行われていて、我々それを評価しろというのもいかなものか。

いい意味では網羅されています。悪い意味では総花的で、市が事業者としてやること、市民としてやるのが断片的には進んできておりますが、全体的にまとめると分かりづらいのが現状であると感じました。

会長

本当に名張市がこれから、日本一、世界一への環境先進的な町になるためには、ここで脱皮しなければならないものもあるかと思います。是非とも皆さんの貴重なご意見が、原動力になりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

委員

できることとできないこととがある。できることから、進めていくという考え方にしてはどうかと思ひました。

委員

市の構想はコストに一切触れてない。だから、どれだけの予算が市の中であって、これをやることによって、達成するのに莫大な投資が伴うもの、投資のいらぬもの。例えば市民の協働において、市民が立ち上がるような行動に市として仕向けるものについては、そんなに金をかけてというよりも、仕掛け作りをしたら、市民は協働できるかと思ふ。バイオマス構想も一旦いろいろ問題があつて、消えたりしてるのも見聞きしている。

会長

ありがとうございます。どんどん意見いただきたいと思ひます。

委員

スマートシティ構想について、幾つか、実証、実験例を調べましたが、これがスマートシティです、という概念はないです。そうなると、どういふふうに取り組むべきかという問題を考えるときに、まず地域で特性のあるスマートシティという考え方をとらなければいけないということが1点です。

それから2点目は、役所としては、これが抜けているじゃないかと後で言われては困るので、いろいろなことを全て網羅せざるを得ないと思ふが、先ほどの名張市の特性と、それに合わせて、名張市としてはこういうところから順番に片付けていくというプライオリティーを決めていく必要があるのではないかと思ひました。

会長

ありがとうございます。どんどん何回でも構いません。

委員

このグリーンエネルギーという意味、定義をはっきりしてもらいたい。この資料に載ってなかったの、意味をはっきり示してほしい。

会長

ありがとうございます。

事務局

グリーンエネルギーのグリーンは特別な理由ではなく、いわゆる新エネルギーを活用、太陽光であったり、風力であったり、バイオマスであったり、新エネルギーを活用して生み出した電力をグリーン電力と言ひますので、そのグリーンをとってグリーンエネルギーと付けた名前であり、名張市独特のグリーンという意味ではない。

委員

自然エネルギーですか。

事務局

そうです。

委員

どこかに説明をいれてもらったらいいと思う。

事務局

用語のところつけさせていただきます。

朴先生から開口1番におっしゃられたことは、計画を策定しながら痛切に感じております。まず、名張市の地球温暖化計画のいわゆる策定目標とか、度合いがどうかと言われましたが、あくまでも今作られているのが事務事業編のみであって、名張の地域計画という部分がないので、名張市全体のCO2排出量が出ない。出ないが故に、たまたま本年度手掛けて手作りの中でこの数値をはじき出そうとするには無理があって、今回その数値等はあえて組み込むことができなかったというのが大きな要因であったわけです。おっしゃられるところは重々よく承知した上での、今日は提出ということであったわけです。

それから、コストのことは確かに今もって、総花的な形で、あの事業もこの事業もということを書いた中で、本当に名張市が今の財政事情の中でどれほど財政投入を図って進められるかというのも1つ大きなポイントとっております。本冊のほうで、実はその名張市のいわゆるエネルギーの賦存量というものを手作りで計算しています。今、手で計算できるところの最大の手作りの計算としてはここまでが精一杯で、いわゆる地熱とかバイオマスとか、その分野まで網羅して、名張市の本当の全量賦存量をはじき出すといったこともできなかったということで、中途半端な明記で留まっているのも事実です。そんな中で、仮に太陽光だけをとらまえて利用可能量の算定までしてみました。全名張市域内にある建築面積50平米以上の建物に、その20パーセント程度くらいの太陽光パネル発電を導入したらこれだけの電気を生み出すと机上計算上はできていますが、これでもって何パーセント削減を図るという目標数値を設定するのも乱暴かというようなこともあり、こんな形で留まってしまったというところなんです。ですから、事務担当者も一番心苦しい部分であったというところなんです。

会長

よくわかっています。あえてこの話をさせていただいたのは、名張市は今まで何もしてなかった、その遅れをこれからやっていくということだけでも充分意味があります。何で出来なかったか考えないと同じ事がくり返されるので、あえて申し上げました。とにかくいろんな事業で名張は手が挙がらなかった。例えば、新エネルギービジョンはあくまでもビジョンでそれで終わってしまうので、あまり役に立たないものが多いが、それでも三重県内では、御浜町を始めいろんなところで手が挙がって、そのお金で、この地域がエネルギー資源、再生可能エネルギーを主にしたときに、何が一番適しているかということをただで1年かけて算定してくれた時期がありました。それが上手くいけば更にお金をかけて、次の段階まで調査があったが、残念ながら名張市は手を挙げなかった。

また、直近には、低炭素社会のモデル事業があるということ国や県が呼びかけていたのにも関わらず、名張市は手が挙がらなかった。いろんなところでなんで手が挙がらなかったかは、行政のよくも悪くも慎重論がすぎたからだと思うが、時には思い切って手を挙げてやっていくということも必要だと思う。これは、環境が主にリーダーシップを取るが、多岐に渡っているので庁内において縦割行政と言われる中で、横の軸が入られるかということが大事なポイントになっていて、そこもこれから頑張らないといけない中で、一般市民と事業者に対して、やりましょうと言っても、行政が自ら率先してみえる化してもらえないと、市民・事業者からの協力は難しいでしょう。

そこで、厳しい財政の中で、どのくらい予算化をすればいいのかよく考えなければいけない。物事を

推進していくためには、ある程度予算化が伴わないと絵に描いた餅になってしまう。説得するにはロードマップがなければならなかった。5年間やって下さいという中には、1年目は必要最小限でもこまめでやる、2年目はこまめでやる、3年目はこまめでやる、4年目はこまめでやって、5年目はどうだと思わせて、そこに成果と課題を見据えて、また次の5年とか来年にいくといったようなロードマップがない。お金がないことに関してはある程度理解もできるが、せめてイメージ・ビジョンを見せるわけだから、5年間の間に、どこまでやるかという節目節目のロードマップが提案されていない。それはどういうことを意味するかと言うと、議論を1から戻さないといけないかもしれないという危惧があったからです。だから、庁内を横断的に繋げていくように手と手を結ぶことを真っ先にやっていただかなければならない。ロードマップと予算措置はかなり必要で大事な部分です。例えば、最初の年度は、ごく僅かな意識しかできないが、国やいろんなところのものをとってくるような仕組みを考えておかないと、市の厳しい財政の中から自腹で、自力でと思っただめになります。そのために、アンテナをはっておかなければならないですし、真っ先に県との強いパイプを作ってください。県は、国がああいう感じなのでいろいろな部分でもがいている。名張の悩みも県の悩みも似通っている部分もあるでしょう。その中で、名張はここが強いよということであれば、そこを真っ先にやる。さっき委員の中で優先順番を決めましょうという話もありました。

大変申し訳ないが、今回は受け入れますが、それに繋がっていくようなものも真っ先に作っていただいて、私たちにどんどん送っていただきたい。議論だけではダメなら、予算がないのはわかっているので私たちボランティアでも来ますから、何回でも顔合わせて話をしたほうがいいのであればそうしましょう。もし、顔を見なくても、メールでできるのであれば、それでやりましょう。

最初1月は無理ですよと言ったのは、何の問題がなく上手くいっても1月は厳しいかもしれないのに、予定が先に決まっているのではないかという従来の行政のあり方を見たような気がして、突っ込むような話をさせていただきました。しかし、よかろうとすることだから、これからはやり方を考えます。そのためには、朝も昼もたぶんないかもしれませんが、どんどん出来たものをとにかく送っていただかなければならない。そして、相談をして、どうしても顔を見なければならぬときに、ボランティアでもいいから、ここに座っている方々は、責任が強いしやる気いっぱいの方々ばかりなので、なんとか、方法が出てくるんじゃないかという気がいたします。

それと、最後にもう1つが、アバウトな計算が一番困ります。例えばモデル地区を名張市のAという地区にすることで、こういうことが見えましたというならよいが、あまりにもアバウトなもので名張市全体のものとしてしまうと、それが一人歩きをしてしまいます。そうすると絶対合わないものが出てくるし、それがあまりにも身体が大きく動きが難しくなっているので、例えば、ABCとかでもいいですので、モデル地区を考える。例えば、このくらいの規模なら、今の考えが当てはまるとか、そういうものをいくつか重ねて、全体的にえいやっという形でもいいのでやってみましょう。せっかく計算もしていただいたのでこれは無駄にはできません。これは使いたいです、これはどのくらいのバックグラウンドを持っている地域なら、これが当てはまるのか、全く当てはまらないのかをもう1度考えていただいて、先にABCDとモデルの形を重ねていただければ充分じゃないかなと見ていました。皆さん、意見ありますでしょうか。

#### 委員

先ほどから会長は、名張市はこのことについて、何もやってない、というような言い方をされましたが、私は地域住民の代表の立場から言わせていただきますと、名張市の環境担当者は、常にごみ問題については協議したりいろいろ各地域で努力しています。ただ悲しいことには、会長さんが言われたよう

に、やっぱり予算を付けてもらう。今、ごみ担当の環境委員さんがいるが、その環境委員さんは、市から指定してくれる人数が地域によって決められています。そのごみ等の問題をもうちょっと地域で環境委員さんを増やして、そして高齢者の多い中でごみの分別について指導をしていきたいという中で、環境委員さんを増やしたいがその環境委員さんの予算がないと。例えば、地区で2名の予算がある環境委員さんを3名に増やしたいとき、その3名はその2名の予算の中から皆さんで分けてくださいよというやり方ではやはりごみ問題等は。会長さんにも、私ちょっと憤慨しています。会長さんが、名張は何にもやっていないと言ったことに対して、我々地域代表としては、地域住民が一所懸命になって、地区の自治会長さん始め、環境委員さんがやっているのに、やはり予算もある程度付けていただかなかつたら、なんでもかんでもボランティアっていうわけにはいかないです。会長さん、名張はこれを一所懸命になってやっているんですよ。

会長

わかりました。よくわかっています。

委員

我々住民に言うより、まず業者にごみの問題をもっとしっかり指導しなさいということを常に言っています。我々は市の環境課から言われたとおり分別をし、言われたとおりのことをやっている。業者はそうではない、なんでもかんでも一緒にまとめてぼんと持っていったらとおるわけです。地域ではそうじゃないです、環境から指導してくるのは。常に環境問題のときには、住民は一所懸命にやっています。協力しています。業者なんかはそんなこと全然していない。だからもうちょっと業者を指導してくれるといい。

委員

補足しますと、私も環境委員を8年やって、少なくとも自分のできる番町150軒あるが、名張市の施策がステーション方式から始まって、分別、有料、そういうことに対して、旗振りながらやっています。確かに地域住民の方に事あるごとに説明し、自らやって、今も喜ばれている点もあります。特にクラス対策というのは、大きな問題で、それも全部処置して喜ばれていますし、新しく入った人は何とも思っていないが、その当時からやっている我々にとっては、今、連合会長さんがおっしゃたように、地域づくりで頑張っているのは市民の方です。ただ、やっぱり年々課題が出てきます。確かに高齢化で、分別してと言ってもなかなかできないとか、荷物が多くなったりしたり。

環境委員は5000円で、地域づくりに入って、個人にくるのはそのぐらいのものですから、私はお金いらないと言ったら、やっぱりいるところもあるということで。金よりも、そういうことを地域でやっていることは理解されていると思いますが、その中でいろいろこの項目を見て、評価して、実態というのはどれほど捕まれているのかというのは、後の議論にまわしたい。ただ、補足としては、今言ったように、地域の住民やっています。ただ大きいことはできません。CO2減らしなさいって、そんな、国の京都議定書から始まって、それを市民に言うんじゃなく、今の現状から少しでも燃料を減らすとか、省エネと言ってもわからなかつたら、ごみをどうやって減らしたらいいのか、それが出来たら、立派な町だと私は思っています。そういう温暖化の話を我々議論して、それは名張、世界、日本の、そんな話ではなくもっと具体的で、1つのことが共にお互いに協調して、名張市全体として、結果として下がるということを期待して私はこのメンバーに入ったんですから、先ほどおっしゃったように、会合必要であれば、何回でも出ます。このために会議に出ます。

会長

ありがとうございます。では、皆さんの話で名張市らしさというのが見えてきました。私たちはそれ

を市民ガバナンスと言いますが、市民が主役で、市民が引っ張る。そこに行政は、全面的にあらゆる手段を投入して、市民の皆さんの高い意識とそれから、成功事例を持っているノウハウを、むしろ行政がどのようにして全体的にもっと広げていくのか。そういうことを考えるコラボができれば。名張市モデルがもう既に今日の短い時間で、市民がやっているということをあれだけ強く誇りを持って言える市もなかなかないと思います。市がやってくれない、行政がやってくれないからできませんという話をよく聞かすが、市民が頑張るんですということを、これだけ熱い思いで語るような審議会も本当に珍しいと思っています。そういうことは名張市らしさというものが既に見えてきているような気がしますので、この方々をいかにして、次へのステージにいけるように行政が全面的にバックアップしてやっていくのか。市民だけでできないさっきの事業者の話など、そういうところに行政がいろんな形で話し合いをするなり、或いは指導するなりという形で、市民が出来ること、出来ない部分、難しいところを、コラボしていくようなもの、それで名張市のグリーンエネルギービジョン、このネーミングを最終的に皆さんともう1度考えていきたいと思いますが、名張市らしさが見えてきたような気がしてほっとしました。ありがとうございました。

委員

パブコメは取られるのですか。そんな時間はないですね。

事務局

今回は、スマートシティ構想が先に出てしまったことによって、では何をするのかという具体的な肉付けのような形で、後付けの計画を作成しているような状況になっているので、この審議会の意見や、議会の意見、庁内の政策調整会議の意見を聞いて、これをまとめた肉付けの実行計画、構想というよりもアクションプランでもあるというような形で、作り上げようという考えです。

委員

市民参加というような意見を加えると、早い時期にそれをやっておけばよかったのではという気がします。

事務局

そうですね。

委員

我々住民としては、最初やっぱり行政には反発ありました。厳しい規制というか、あれも、これもしると、最初はそういう気持ちだったが、やはりごみを減らすことについては、住民が行政からの指導に従いながら、今は一所懸命になって取り組んできたのではと思います。平成2、3年ですか、このごみ問題のごみ何とか協議会というのを今ここにられる方が当時の委員会の委員として、理事として参加してくれていたが、その時分から、このごみの有料化をどうするかというような会議等でも我々で、住民の反対があったが、なんとか、市の要望に答えるために、我々2人で頑張った時期もあり、ごみのことについては、私ども本当に真剣に取り組んでます。

委員

このままああでもないこうでもないと言っていたら、審議が進行しませんし、何をやるかを明確にしなければいけませんので、まず、先ほど1月中にまとめたいとおっしゃったことは、この概要に書かれている内容全てについて固めたいということですか。

事務局

一応は年度内というのが前提の中で、1月くらい中には意見をもらった中でまとめあげたいという思いであります。



委員

こういう計画を立てるにあたっては、その到達点的な最終の目標がまずあります。それに対して、具体的に地域を絞るなり、先ほど申し上げたプライオリティーを決めるなり、こういう手順で5年でこうしましょうという計画になるかと思います。それについては、いきなりこれを1月にやるのは不可能です。朴先生がおっしゃったように、作文もいいところです。我々ができるのは、1つは到達点だけでもせめてこの3月までに明確にするのかということ、それから、つまみ食いになるかもしれないが、この地域だけこういう形でやってみようというような実証実験的なプランを立て、それを元にして、次の5年に向かうプランを立てると。この2つの方法しかないと思います。

委員

今言われたとおり、1月は無理かなと。

会長

作文で通すのはやめましょう。皆さん、言いたいこともいっぱいあると思う。厳しい日程の中でやっていくのは重々わかっているが、市民はもう既にいくつもステップをアップしています。その市民に対して、このようなもので通したら名張市の姿勢を疑われても仕方がないと私は感じました。だからどこまでならできるのかもう1度精査していただいて、到達目標はなかなか難しいかもしれないので、実証事業というようにあるところの部分でいくつかやってみましょう。予算も限られているが、ゼロではなく、ある程度市は工面してやらなければならない。皆で、スピード上げながらつくって、しかるべきときに審議会のメンバーだけでなく、やっぱりパブリックコメントは通さないと、市民から納得いくような、例えば1つも意見がなかったとしても、1ヶ月くらいは、皆さんから意見をいただくといったような手順を踏みながらやっていくのが、遅いようだが実はそれが1番早い道かもしれません。作文・作文だって嫌味に聞こえたかもしれないが、作文として本当によくできています。だから、この中から並び替えと順番を変えていただいて、出来るだけ早く答えを出させていただけます。そういう形でやっていきましょう。

委員

本当にこれよくできています。我々反対しているんじゃないです。例えば僕だったら、これ全部見るのに一週間くらいでした。市民の方に伝わらなかつたら何の意味もない。こういうビジョンは我々や有識者の方を含めて、あるべき姿、定義は大事だと思います。見えないものは見えないで結構ですが、5年計画であれば少なくとも今年来年と、具体的に市民にこういうことをやりますと、ワンペーパーで示してほしい。これを市民の方に読んで下さいといっても、誰もそんなに読まない。レスペーパーに反するくらいでもったいない。好きな人は読むと思うが、読んだら読んだだけ疑問が出るのが現状だと思います。

このビジョンは素晴らしい教本だが、具体性が市民に伝わらなかつたら善書も悪書になってしまうので、市民にA4でわかりやすく、今年この3つのことをする、それに予算をこれだけ付けて、市民も協働でやろうというように、ビジョンを上手に達成するように仕掛け作りが仕事かと、それを我々が評価していくことになるのかなと思う、その代わり努力もします。ワンペーパーで市民に分かりやすいようにしないと、これは難しい。

会長

ありがとうございました。

委員

この資料は今言われたようにわかりにくい。住民の皆さんが分かりやすい文章に変えていただいて、

代表者会議でそれを言うていただいて、代表者が地域に持って帰って各地域の区長、自治会長さんに説明をして、住民に伝わるようにしていかなければならない。

委員

15の地域にわかれているのでそこから地域に広げるということは、ワンペーパーです。内容についてここで決めてもいいし、たぶん1月にもまた議会にかけるのでしょう。先生方は立派だと言って判を押すのだろうけど、立派と実務と違いますから、今会長さんおっしゃったように我々ちゃんと見ないと。

委員

15の地域の代表者の方でも、会議に出てきても何1つ意見を出さない代表者もいる。だから、私は常に言っている。代表者1年くらいで交代というのではなく、やはり2期3期くらい務めるようにしていかなければ、地域のこと何ひとつわからないしその地域が発展しないということを私はやかましく言っている。三重県の自治連合会も今までは1年交代だったのに、今は2年というように変えてきています。1年くらいでようやくわかってきて、こうやりたいなと思う時分に辞めないといけないということでは、全然発展しない。

委員

名張市さんは地域協議会っていうのがあるんですか。

会長

あります。すごく早いですよ。ものすごく早い段階で。

委員

言っておられることは、その機能と計画の実行とをうまく繋いでいくということなんですね。

委員

かなり直結しているのもあります。

委員

だから、グリーンエネルギーの問題についても、そういう地域協議会とこの審議会や行政がやることと、上手く繋いでいくような仕組みにするということです。プライオリティーというときにも、その地域協議会での取組が一番受け入れられやすいようなことが目安かなと思います。地域協議会というのはいい制度ですが、よそではあまり普及していません。

委員

そうですね。伊賀市は、自治会はできても協議会、連合会というものを認めないということです。というのは、当時の自治会長さんがあまりよくできた人で、議会や行政にいろんなことを言っていたので、やはり議会でも行政でも、これでは連合会を認めませんというようなことになったと。

会長

ありがとうございました。他の議題もあるので移らないといけませんが、これを人に見せるときのことで気になったことで、この3つの要素ですが、全体を巻き込むのがコミュニティという地域で、その地域の中に清流とかを謳おうとしてみたから自然構成の社会だよと。それから、ごみとかの循環型においては、名張はリードしているよというところで、ごみの部分も二酸化炭素やエネルギーにも直結しているものの1つなので、循環型とかごみとかそこに1つ入れる。エネルギーに1番肝心なのは、エネルギーを極限状態までなんとかしようということじゃなく快適な低炭素社会実現に向けたものだから、1つくらい低炭素社会にする。3つの大きな要素はちゃんと入れてあるが、コミュニティが別にあって、エネルギーが別にあって、コミュニティが一部分になったらおかしい話なので、丸く全部巻き込んでいくところが、名張という町ということです。その中に、自然と循環型と低炭素があり、そこに主役は市

民と事業者と行政がうまくコラボすると、三角形のバランスが一番いい。それを今書きましたのでお渡しします。少しだけ見た人が、もう名張は何かやっていくんだ、読んでみようかというようにさせないけない。

今日ご覧のように、いくつか議題がありこれが全部ばらばらじゃなく、結局、このグリーンエネルギービジョンを作るために、必要とする基本的な計画の資料が入っているはずなので、次に活かさせていただいて、言い足りないことがあったら、最後その他のところでまたさせていただいてよろしいでしょうか。

委員

はい。

会長

では2に移らせていただきます。第二次なばり快適環境プラン実行計画の成果報告について、資料に基づきまして、事務局、説明よろしくをお願いします。

## (2) 第二次なばり快適環境プラン実行計画の成果報告について

事務局

『平成24年度第二次なばり快適環境プラン実行計画成果の総括表』により説明

会長

ありがとうございました。ただ今の説明に対して、皆さん、質問、コメントなどありますでしょうか。

委員

現状337施策項目ありますが、担当部署該当無しというのが18項目あります。私は今年から委員になったので前回の評価がわかりませんが、担当部署を決めてない施策が18項目がいつも評価「未着手あるいは大幅に遅延している」という最低の評価をされているが、行政すら担当してないのに、誰が何で評価するのですか。取り組んでないのにどう評価されるのですか。

事務局

これは当初計画であったが、途中でやめになったりしたものについて、何年かの計画になっておりませんので途中で取り消すこともできなかったため、一応未着手という形です。

委員

評価する必要がない項目について、例えば該当しないものもあります。調査したが該当しないものがなぜ1なのか。調査して該当しないという結果が出たら、それ以降何も進める必要はないので、その評価を黒四角にすることがおかしい。それと、未着手か知らないが、該当なしと毎年3年間書かれている。また25年度見ると同じように書かれている。やらない項目だったら、どうしてやらないかという理由を付けて、項目から外すことが当たり前じゃないですか。5年間同じようなことで、白紙で残されるのでしょうか。あと3年間も残されるのでしょうか。だから黒四角がものすごく多く、27になっている。そのうち少なくとも18個で取り組んでいない。やらなくてもいい項目ばかりですか。

事務局

この項目につきましては、第二次なばり快適環境プランの中での項目ということでしており、これにつきましては、まだ実行計画を移していく最中の話がありまして、これの各項目に基づいて施策を設けておりますので、途中でやれなくなっても、それは当初なばり快適環境プランの中で挙げられた計画の中のことで、このままにしています。

委員

4年前にこれをつくられてスタートされた。4年前から今、社会情勢は年々変化しています。総花的と最初言ったのは、つくられた方は本当に優秀な方です。蟻が入る隙もないくらい全てに渡って緻密につくられているんです。しかし現実実務をやろうとしたら、しなくていい業務も出てきたから完了、調べたら該当しない項目があるから完了とか、もしくはきちんと理由付けしてストップさせたらいいじゃないですか。書いてあるから続けると言ったら、もう3年また同じ白紙で、そして評価の一番悪いもので残るので、それは評価じゃないと思います。調べて終わったのだから、完了で二重丸でも僕はいいと思う。もし出来てない項目があれば、部署を設置して、今年やるべきです。

会長

どうでしょうか。

委員

結局、やろうと思ったけどやれなかった。予算が足りなくてやれなかったとか、そういうのも含めてだと思うので、やらないというわけではない。やれなかったということで、さっき行政さんがおっしゃったように、今度作り直すときにそこをもう1度見直すというような形で書き直せばいいことであって、できないのはできないんだから、正直にできなかったというのはやはり書くべきだと思います。できなかったからといって、この項目を削除するというのはどうでしょう。

委員

できなかったからではなく、やる気があれば部署を設けて下さいよ。また3年間同じことをやるのですかと言っているんです。25年度もみんな白抜きです。予算がないんだったら、予算がないとか、何年度にやるとか、何かコメントがあって然るべきです。だから、評価対象にはならないのではないですか。それか、何か事務局として考えがあるのでしょうか。

事務局

いえ、おっしゃっていただいたとおり、それは感じるところです。

委員

せっかく一所懸命作っていただいたが、無駄な比較が非常に多いです。例えば、授業でも何校に環境教育しましたと年々付いてます。これは学校に対して、仕掛けを作られて校数が増えて定着したら、もう達成で、平常業務でいいんじゃないですか。毎年14校やりました。14校やりました。14校やりました。これが達成ですか。14校やっていることに対して、継続していただける土壌を作ることが大事であって、それから何かを読み取らないと次のステップというのは、例えば、教育内容を変えとか、本当に子どもたちが理解しているのかということが環境学習だと私は思ってます。それと、定量的に、数値、何校っていうのが書かれていないですが、何々に努めました、何々しました、何々します、となっていて評価が決まっている。例えば、何々に努めました、どういう場所に、どういう目的で、こういうことを何名の人に講義しました、としないと全然補足資料がないので評価できないということです。非常にマンネリ化している。

環境対策室については、相当やられているのが伺えます。現実にも見て知っております。ただ、教育委員会、学校教育室、何の動きもこれでは読み取れません。何々しました、と新しいことが全部終わっているんだしたら、今子どもたちにいじめとかいろいろ環境の変化があるわけですから、これを発展して、子どもたちに、学校に対して、もう少し仕掛け作りをして、同じ項目でも積極的に展開するやり方があると思います。毎年3年間、同じことで評価が二重丸、机に座って学校が勝手にやるんです、何にもしなくても二重丸、これに疑問を持っております。総じて、変化があったところ全部調べましたが、

変化の理由がよくわかりませんでした。

会長

はい、ありがとうございました。どうでしょう。

事務局

確かに空白になっている部分については、おっしゃっていただいたとおり、評価のしようがないとその通りだと思います。それで、なぜ事業を辞めたのかとかそういった理由も書いていくようにしたいと思っておりますし、全体を検証する中で教育委員会の動きがわかりにくいというのもございますので、学校に対してどういう働きをしているのかとか、具体的な話とかそういった部分についてもお伝えしていくようにしたいと思います。

会長

はい。

事務局

学校の関係で補足させていただきます。24年度につきましては、5月の校長会の場で、環境学習をやっていくと言って、大きく分けてごみの分別、それがエネルギーを節約できることになる、そして環境負担を軽減していく、地球温暖化防止に繋がっていくことをやっています。パワーポイントでスライドのように映すとか、生ごみの処理機を持って行って実際給食の生ごみ入れてもらうとか、それから、ストッピー号というチップカーがあり、そこへ木を突っ込んでチップにしていく、それでそのチップを校庭に撒いたりとか、そこにカブトムシが産まれましたとか、そういう形でごみを減らそう、或いは資源循環型社会を目指そうと体験型でやっています。23年、24年度で10校あまり800人くらい。それから25年度ですと10校で600人くらいが参加していただいた。それで今日学んだことを必ず他の学年の子どもたちに話して下さい。そして家に帰ってもまた話して下さい。それから、夏休みおじいちゃんおばあちゃんのところに行ってもごみはこうだ、こまめに電気は消さないといけないというようなことを伝えていく。自分が学ぶだけではなくて人に伝える。ごみの有料化から5年経ってマンネリしてくるものもありますので、子どもたちの視点から、小学4年生が一番学習意欲もありますので、学校のほうも1時間半の授業、もうあと1時間延長してという声も出てきたりと、今後も、そういった形で学校の場も開いてくれているようですので、今後も続けていきたいと思っています。

委員

補足します。環境対策室のほうは具体的にわかります。

項目で言えば、「学校における環境教育の充実に努める」という環境目標2の1、そこの中の学校教育室Aという中で、それを全部読むと1回できたものが3年間同じ形にしている。環境対策室の環境教育は脱皮している。カリキュラムを作るとかは、教育委員会なり、学校、教育関係の部署があるが、そこと上手な連携がされてないから作文だけで終わっているんです。プログラムができた、できた、できたとなっているが、どんなプログラムかというのが見えない。だから実物を持って学校に入っている環境部門の環境対策室と、学校をきちんと仕切らなければならない教育委員会とが上手に合併してない。ちぐはぐのような気がする。

委員

私は現状が分からないのでどうこうは言えませんが、子どもは毎年入れ替わっていくので、その限りでは、同じことが毎年くり返されても、それはそれで正解だという気がします。

委員

そうなんです。

委員

だから、同じテーマで何校取り組んだということがあっても、それはしかるべきではないのか。だいたい3年生か4年生が中心になってこういうことしていると思うが。

委員

そういう意味ではなく、例えば、教育委員会か学務管理室かわかりませんが、その年に1つプログラムをつくって校数を増やしてきた。それが、次年度も3年度も同じ項目を書いているんです。だから、そこからストップしているんです。学校は当然それで授業を進めているわけです。副読本をつくられたらそれを基にやっているわけです。環境対策室がやっている教育というのは、それプラス現実のごみの減量とか含めて、実態授業じゃなくて子どもたちに補足でやられているんです。だけど、それであったら、教育委員会が1つつくったら、次の年も同じことで結局1回で評価二重丸もらったら、次からは何を評価するんですか。次の年、評価項目ないんです。

委員

具体的な内容も把握しておりませんが、ただ、子どもたちに同じ内容かもしれないが、毎年人が変わってもやっていかなければならないということだけ申し上げたい。

委員

その通りです。だから1回つくって定常業務になれば、評価するのがおかしい。学校がしなくなったという場合は別だが。

事務局

環境学習をお願いさせてもらっても学校の取組というのはいろいろありまして、副読本を使われるのを相談にみえた年もありますし、そして環境衛生組合の清掃工場とか行って学習するという方法もあります。それで我々目指すところは、後に残るものという形で、見ていただいた子どもたちには必ず作文を書いていただく。それから、できるだけ生の声で、働いてる人、環境レンジャーさんが実際不法投棄のパトロールやったときどんな状態とか、我々事務職員じゃなくて、現場で作業していただいている方のメッセージなんかも実話としてさせてもらおうということが大きいと思って、図上だけを読んでではちょっと足りないことを、できるだけ伝えていただきたい、その辺で、ちょっと差を付けてるつもりであります。

会長

今の議論は2通りあったと思います。特に教育は、委員の皆さんがおっしゃられるのも、市のほうで答えるのもそれぞれの立場があり、もうちょっと工夫をすれば何とかできるかなという感じがするので、その部分で何か工夫をしていただきたい。

もう1つ、環境対策室以外の室などでなしというところで、実施できない部分に関して今後どうしていくのか。それを早急に答えを出していただきたいと思います。これはもう本当になしでいくのか、たまたま平成24年度に関してはなかったから評価ができなかったが、平成25年度になったら、どこそこがやれるようになるとすれば、それはそれで1つの考え方ですし、本当に構造的になしっていうようなところに関しては、明記をした上で、それは評価しないという形にする。そういう部分に関してはどう考えたらよろしいでしょうか。

事務局

聞き取りした中では、空白になっているところは、もう事業を取り止めてしまったというパターンが多いように思います。そういうところにつきましては確かにそのまま白紙にするのもおかしな話ですので、取り消すということで、或いはまたそれを聞いた中で、また予算さえ付けば復活したいというもの

がありましたら、そういった旨を書くとか、評価はもちろん低い値になると思いますが、理由付けが大切になってくると思います。

会長

1つ提案です。これは恐らくEMSの名残から出てくるPDCAサイクルを回さないといけないので。今の名張市は、ISO14001などをまだ持っていませんね。返しましたね。

事務局

返しました。

会長

ならばやりやすいです。自分の身体に合わないものは見直しが必ずありますので、それはトップの市長に見直しをさせるんです。やれるところはないし、或いはもう終わったとか。時代に合わないのでなくてもいいんだとか、納得がいくような理由が付けられて、トップによる見直しができれば、新たなPDCAが回るんです。だから、これは決めたから何が何でも何年かずっと持っているというのはダメな考え方で、どんどん考えが自分に合うようなものにしないといけない。思い切りで大丈夫なんです。何にもしないということじゃなくて、もう既に出来上がった、或いはこれはちょっと監督部署が今の庁内でありませんという形になってたら、出てくるまで待つとか、当面実施しませんとか、そういう形にして見直しを必ず記録として残してやればいい。できないところについて、いつも四角の黒でなしなしになったら見苦しい。必ず理由をつければいいので、見直しをして新たなPDCAサイクルを回して下さい。

その次、もう1つ、平成24年度名張市EMS取組状況報告について、引き続きよろしくお願ひします。

### (3)平成24年度名張市EMS取組状況報告について

事務局

『平成24年度名張市EMS取組状況報告』に基づき説明

会長

ありがとうございました。これについても皆さん、質問、ご意見などありますでしょうか。

委員

4ページ、公用車燃料データの記述の中で、交通機関による出張旅費削減のため、公用車の利用による出張が増加したと、本当なんですか。

事務局

はい。

委員

出張範囲内というのは、どこまでとされていますか。

公用車で行くのは三重県内ですか。それとも県外も公用車ですか。

事務局

県外も行きます。

委員

それが、交通費より安いんですか。

事務局

はい。

委員

公用車が安い。

事務局

公用車のほうが。特に2人で行ったりする場合には、公共交通機関使うよりも、公用車で行くほうが。

委員

何人も一緒に行くから安いと。そういうのを逐次考えられてやられているんですか。

事務局

そうです。

委員

必要であれば公用車で別に東京まで走っていいが。普通は近くは公用車、遠くは、交通機関、公害の面でも、市はちぐはぐです。金が安いから公用車でCO<sub>2</sub>をばら撒いて行きましょう。CO<sub>2</sub>の立場になると、少しでもCO<sub>2</sub>を減らして、交通機関を利用しましょう。このちぐはぐをどう考えるか。できるだけ交通機関を市民の方は利用しなさい、もしくは、皆さん方はエコ通勤、今年の新聞のスクラップも取っていますが、382名がCO<sub>2</sub> 510キロ減とここまで頑張って、通勤は自転車とかでやっている。一方では公用車が、料金に置き換えて高いというが、交通、一般交通を利用しなさいと訴えている、やっていることがちぐはぐです。あとでコメントあれば教えて下さい。

もう1点、5ページ、これは大きい問題じゃないが紙が増えたことです。従来印刷業者に発注していたものを庁内でやったから増えましたと。一般企業では、業者に発注した場合コストがいくらかかって、庁内で印刷した場合、紙が増えてもこれだけの費用で済んでこれだけの利益があるから、市全体の予算からコストダウンができた分を評価するわけです。これは、紙だけにポイントを当てた考え方で、矛盾している。今、企業でやっているのは裏表、ミスのないように、できるだけメールで連絡、紙ベースはやめましょうとそうやって節約している。印刷していたら紙を使うのは当たり前です。コストダウンするために、自分たちでちょっとしたものは手作り。例えば、きれいな製本しないといけないと言ったら金がかかりますのでできません。でもこのようなものだったらコピーいくらでもできるわけです。そこはどういうふうに評価されるか、これを読んだ中の2つの疑問でした。以上です。何かあればお答えいただきたい。

会長

どうですか。

事務局

公用車の使用につきましては、確かに公共交通機関を使いましょうと言っている中で、市のほうで公用車を使っていると、確かにそういう矛盾点はあると思います。ただ、こういうこと言ったら、また元の木阿弥になってしまいますが、いかんせん、財政上の、当初の交通費を付けてもらえないこととの関わりもできてまして、なかなか難しい部分もあります。

委員

厳しいようですけども、少なくとも快適環境を目指す審議会であれば、CO<sub>2</sub>減らすと言いながら、一方では、金がないから車で何人相乗りしてというのはどうですか。市長が緊急に行かないといけないとかいう場合のことを特に言っているんじゃないです。

財政の許す限りやったらいいと思います。

会長

ありがとうございました。名張市の23施設だったり、19だったり、年々施設が若干変わることも



あるが、先ほどの市民が頑張るんだということから見ると、市に関係している施設はだめです。これを見てみると、もちろん年によって、暑かったり寒かったりということで、人が倒れたら困るし、子どもたちが過酷な環境の中で病気になったら困るし、そういう特殊な事情は考えなければならぬにしても、今どこも必死で減らしています。努力が感じられません。

それと、目標、LP ガス以外で全部オーバーしていて、なんのために目標を掲げたのか、この目標が無理な目標だったのか、この目標を達成しようと、市民の熱意の半分くらいの熱意を職員が持ってひたすら頑張ったのかどうか、ほとんど感じられない。これを持って、市民にああしましょう、こうしましょうといえるのか。市の施設に係わる人たちがやってないのにです。是非とも早急にまわるなり全部集めるなりして、強く指導をしなければならないと思っています。

県でも大学でも学校でも皆今、3.11東日本大震災以降、若干緩んではいるにしても、皆必死です。暑かった寒かったということに係わる電気の使用とかは若干プラマイになるのはわかるけど、紙は、業者に頼まないから増えたというがなんでペーパーレスに切り替えませんか。例えば、コンピューターや内部ランを使って、ほとんどのものをペーパーレスになぜしないのか。昔みたいにプリントした紙で配るといふ発想から抜けられないから、これが業者に頼まなかったから増えたというが、ならば頭を使って、ペーパーレスに徹底化していくとかがなければ全然ダメじゃないですか。あの猛暑のところでも、例えば、うちの大学の例を挙げますが、一万入います。11から6パーセント毎月減らしています。これをしていくために本当に並々ならぬ努力をします。どのようにやるかということ、インセンティブ与えます。電気代が何もしなかったら1千万かかったものが6百万しかかからなく4百万減ったから、それぞれ頑張ったところに配分してあげますよというようにしたら、目の色変えて皆減らしていました。

例えば、お金がなければ、減らした分は財源にしてそれを配分するなど考えて、頑張っているところが報われ、頑張らないところにはやるようにもう1度促していくようにしないと、この目標が情けないと思いませんか。守れない、できない目標はつくるべきじゃない。もし、目標設定があまりにも過酷なものだったなら見直さなければならぬですし、できるはずなのに、ちょっと緩んだと言うなら、それはそれでやれますし、暑い中でエアコンが壊れたから、皆が1本ずつ何かを持ってきたから増えた、減ったという理由があるならわかります。ここに通り一遍のことしか書いていない。なんで減らないのか。ここは施設が古くて、皆中央集中になっているから、全然コントロールできないんだしたら、お金をなんとか工面して、少しずつLEDに変えるような工夫をすれば、そういう形でやらないといけない。

だから、来年と言わずに、平成25年度の後半、終わりごろからでもいいが、こういう状況だからあなたたち計画を出してくれとか、どうするつもりだと指導してもいいんじゃないでしょうか。特にごみが増えているんです。今、井川さんは市民が頑張っておみを減らすんだと言っているのに、なんで市の施設は増えるんですか。理由がわからない。市民は頑張っておみを減らすのに、行政はなんでごみが増えるのかわからない。

事務局

既に、先月、庁内会議、ここがいっぱいになるくらいの会議で、庁内の各主管室長会議とかでペーパーレスという形で導入を始めております。そして、プレゼンのように映し出すのと、それからパソコンを見ながらという形に今変えております。

会長

それでは、結果や成果は来年でますね。

事務局

まだ今年のことですので。それから、さっき出張のこともありましたけど、ハイブリット車、リース

ですがかなり多く導入してきました、長距離でしたらそれこそ電車よりも安くなるくらい。ただちょっと取り合いになってしまって、近くへ行く人がとってしまったりとか、その辺の使い方を工夫すればもう少し減らせるのかなと。

会長

燃やすごみはなんで減りませんか。家で一所懸命頑張っでごみを減らすはずなのに、なんで増えるの。

事務局

目標は達成できなかったんですが、少しずつですけども減らしてはいます。横ばいに近い状態ではあるかとは思いますが。

会長

たかだか0.5パーセントの削減です。50パーセントだったら、人間はあまり極限状態までいったらリバウンドするからちょっと緩むというのはわかるけど、たかだか0.5パーセント減らして横ばいですか。これで、市民に向けてごみなんとかしろって言うことは、行政の関係しているところの顔が立ちません。そういう部分をもう少し強く言ってもいいんじゃないでしょうか。嫌われ者になってもいいんじゃないでしょうか。それで、成果をもってインセンティブを与えるのです。誰かが嫌われ者になって、一応成果出して、その部分配分してやっていくという思い切ったものをやらないと。やる気があるなら思い切った方向転換をしてもいいと思います。お願いします。

それに関連してもう1つあります。名張市環境マネジメントシステムについてです。

#### (4)名張市環境マネジメントシステムについて

事務局

『名張市環境マネジメントシステム』 に基づき説明

会長

ありがとうございました。ここに大変重要なところ、第2部とか第3部とか出ていますが、それも踏まえて皆さん、コメントなどありますでしょうか。私のほうで1つ、ここに非常に大事なデータが出ていました。26ページに、平成24年度要するに昨年、20年度に比べて、約20パーセント近く下がったと。これは大変な数値でよく頑張ったなと考えてもいいと思っているのですが、それはどういう部門が一番減っているのでしょうか。これは、総量で計算をしているだけなので、部門別には見ないんですか。

これは温室効果ガスの種類別であって、知りたいのは、部門別。これを見ていたら電力ばかり書いてあるが、これは運輸が主ですか。

委員

24年度の実績ですか。計画と書いてあります。

会長

実績ではなく計画ですか。

事務局

これは24年度の実績を書いてあります。ここで第3次計画と第4次計画と別々に2種類の温室効果ガスの排出量を書かせてもらってあるのは、25ページ目に戻っていただきたいのですが、施設数が増えたり減ったりということで、第3次計画は平成21年度から24年度までの計画だったのですが、その第3次計画で対象となっていた施設に比べて、これから25年度以降に策定する計画では、随分施設

数が増えるので、第3次計画分ではこれだけでした、第4次計画で対象となってくる施設の分ではこの数字ですという形にしています。

会長

こういうような形にすると非常に困るんです。つまりこれは先ほどのごみも減らしませんでした、何しましたって19の施設だけのものじゃないじゃないですか。19の施設の中で、ごみは減らなかったし、全然だめだったけど、二酸化炭素はなぜか19.8パーセントも減ったということですよね。この19の施設に対して。

事務局

はい。

会長

細かいところでは減らなかったけれども、皆がエコ通勤してくれたかもしれないし、何かをした。主なものがたぶん運輸で、車に乗らなければ、運輸から出ている二酸化炭素がものすごく大きいので、たぶんそこで、数値が19.8になっているというが、我々から見ると、名張市の8万人の総量としてやっているものがほしいのです。でもこれは、ほんのわずかな19の関連施設の行政に係わるところだけのものじゃないですか。これはないよりはましだけれども、これは環境マネジメントから出てくるから、名張市の昔のISOに係わるところのみの話ですね。

事務局

これは事務事業編なので、名張市の事務事業で排出される温室効果ガス削減の実行計画です。

会長

だけの話ですね。だから、市全体のそれが部門別にどうなるのかわからない。

事務局

名張市全域のはわからないです。

会長

よくわかりました。つまり、行政の関係しているところでは、なんとかしたらかなり効果があったっというのがわかりました。かと言って皆歩けということは長距離移動する方には大変なことなので日常的にはできないけど、比較的近いところの方は、何らかの形で工夫することによって、これだけ減らすことができましたってことは言えるんですね。

そういうことになってくると、やっぱりグリーンエネルギービジョンは厳しい。やっぱり市民のビジョンをまだ作っていなかったし、市が持っているポテンシャルとして、どういう再生可能エネルギーが一番名張市に相応しいものなのかということがまだわからない中で、こういう作文に近いようなものから、1月に出すというのはますます厳しくて、私は1月に間に合うかもしれないと思いましたが、19の施設だけなんですね。

事務局

はい。

会長

皆さんこの部分についてどうでしょうか。

それでは、その他のところで、先ほどごみに関しては非常によくできているという名張のプランですが、ごみゼロ社会を目指すアクションプログラムに関して何かありますでしょうか。

(5)その他

事務局

アクションプログラムにつきましては昨年ご審議いただき、完成品は改めてお配りさせていただきました。その中で、今まで地道に市民の皆様にご協力いただくことによって推進できたものでございます。いくら行政が一所懸命やっても、地域に入らせていただいて最初は本当に反発もいただきましたが、やはり共にやっついていかないと実現できないということで、有料化を始め、分別、いろんな部分で今も協力いただいております。この辺につきましては、三重県下におきましても、有料化を皆やってるわけでもない、県のほうから言えば名張市が先進的であるという評価もいただいております。

生ごみにつきましても2000戸以上の試行を行いました。また、夏の試行も皆様方のご協力によりらせていただいて、課題も見つかりましたが、今後やるべきであるという結論も課題で残っているところでございます。もう一つは、ごみ袋の価格引下げを10月1日から行っております。それにつきましては、5年半、皆様方が分別にご協力いただいて、名張市独特の5段階、5種類の袋、皆さんにできるだけ小さい袋に移っていただくという意識は定着しているということです。それから震災以降、やはりエネルギーの問題で、ごみを減らしていこう、エネルギーを節約していこうという意識も生まれていると思いますので、20パーセントと下げさせていただいた。名張市の現状につきましても、有料化前と比べて20パーセント以上の現状が続いており、リバウンドも非常に少ないところでございますが、これを機に増えないように、私どもも細かく、地域に入らせていただいたり、環境学習に力を入れさせていただいたり進めたいと思っております。

あと、今配らせていただいた小型家電リサイクル法に基づく資源化の取組と。

会長

これも合わせてお願いします。

事務局

合わせて1枚ものでございますが、こちらにつきましては、今まで名張市においても不燃ごみの中でさせてもらっているものでございます。法律が、小型家電リサイクル法と通称呼んでますが、今年の4月1日から促進していこうということです。名張につきましても、やはり生ごみの件にも経費的な問題がありました。理想に向かうには、やはり経費が必要ですので、この事業につきましても、実証事業という実験の事業があります。これによりますと、初期投資である回収ボックスを、名張市では各15地区の公民館と市役所に置いて、そこに携帯電話、ゲーム機とか、小さな電源で動くようなものを、家電、テレビとかは入りませんが、髭剃りとかそういった家に眠っているものを燃やさないごみとするのではなく、無料で回収させていただきます。それをより資源として生かしたいという目的で各公民館に置かせていただきます。その費用、のぼり、チラシとかボックスの費用が環境省のほうから現物支給されます。今三重県で手を挙げているのは名張市だけということです。

会長

素晴らしい。

事務局

これはお金のいらぬ先進的な取組をさせていただくこと、いろいろ地域のほうで問題あるかと思いますが、また井川会長を中心に地域のほうにもご理解をいただきたいと思ひまして、先月の10月30日、地域代表者の皆様の会議の場にも諮らせていただいて、推進してもいいという形で力強いご支持をいただきました。また、現在庁内会議を行ひまして、10月と、11月1日に庁議というものを経てます。あと、11月11日に教育民生委員会に諮らせていただいて、環境省と調整しながら1月の中旬ぐ

らいにボックスを設置させていただこうと思っております。

それ以降、これは実証実験ですので2月末をきりとしまして、事業の内容、結果を報告させていただきます。それ以降も、そのまま置かせていただいて継続し、いつをもって本格実施ということはないのですが、このまま継続し伊賀南部環境衛生組合の協力を得まして、収集をだいたい月2回させていただくよう進めたいと思っています。やはりのぼりとかいろいろ公民館に出すことによって、資源循環型社会をピーアールできる1つの手にもなると思いますし、多少売れて収入もあるかと思しますので、限りある資源を有効利用していきたいという取組を紹介させていただきました。以上です。

会長

ありがとうございました。このごみゼロ社会のアクションプランと、小型家電リサイクルに関わるもので、皆さんのほうで質問、コメントなどありますでしょうか。

委員

これはなかなか市も市民も頑張っているところですよ。いろいろあっても乗り越えたところですよ。

大阪市などはみそもくそも一緒に、プラントを見てもとてもいいプラントを持っていて、高圧にして臭気も出ない、熱も温度も全然違いますし、防音対策をばっちりしている炉で燃やしている。名張はそんなに素晴らしい焼却炉ではありませんが、分別によって維持管理を長くもたしながら市民も相当力を入れて、これは評価しております。今後も15の地域の皆さんが、隅々まで、特に有料化についてはそれぞれごみの袋を買わないといけないということで、この意識は9割以上高いもので市民に嫌ほど浸透した施策です。分別も大小、お年寄りで難しい点もあるが環境委員さんを中心に施策に充実しておりますので、評価してあげたい項目です。

家電のほうも、いいことには賛成していこうと思っています。

会長

ありがとうございました。是非とも成功させましょう。

委員

ごみ問題については名張市の環境部は相当苦労されています。名張市全市がステーション化ということについても、組長あたりはすぐ賛成してくれましたが当時の桔梗が丘団地は、入居するときに近鉄不動産とそういう約束事になっているということで、うんと言わない。それは近鉄不動産とそういう契約になっている、市とそんな契約になっていないということでごたごたともめて、当時はまだ区長会がある時分で、名張市は全市がステーション決定と区長会で決定された。そして、桔梗が丘が区長会で決定したのならばやむを得ないということで、ステーション化になったということについて、やっぱりこのごみ問題で、市の環境部の担当の皆さんは大変苦労されている。これは最初からこの辺に携わっていませんので、ごみの苦労が一番よくわかってます。

会長

ありがとうございました。その他にありますでしょうか。

委員

今、井川会長のほうからいろいろありましたが、ごみのステーション化に遅れたのは桔梗が丘の一部の区だけでした。私も即やったわけですよ。大半は予定通りいっていたので、桔梗が丘って言われたら、私どもやったところもみそもくそも一緒にされたのではちょっと困る。

委員

それはわかりますけども、それはあなたとこの地域の代表からやっぱり説明しないといけない。我々もあなたとこの一部が出してるとかどうかというのはわからない。

## 委員

しようと言って即したところもあるんです。同じ桔梗が丘の中でも。最後まで抵抗していたところもあるかも知れませんが、最初からやっていたところもあるんです。桔梗が丘の一部という呼び方ならいいけども、桔梗が丘って言われたらちょっとやっぱり皆この意見聞いたら怒ると思います。

## 委員

怒っても、市が頼みに、再度協議委員会を開いて言わなかった、だから区長会で決めて下さいという指示があって、我々は。

## 会長

そういうふうにいるんなことがありながらも成功事例になっているそのノウハウをこれからは、この快適環境審議会において、スマートシティ、スマートコミュニティに向けて名張がやっていくぞと、更なるステップアップしようとするこよくわかりました。

また、エネルギー問題はそんなに簡単な問題じゃないので、ごみ問題も大変だけれども、このエネルギー問題は更にまたいろいろなものがあります。地域住民の力だけでもできないものが必ず出ますし、やっぱり事業者と行政と市民と三位一体で、一丸となってやらないと、絵に書いた餅で終わってしまう可能性だってある。

そこで大事なのは、行政がどういうスタンスで、どういうリーダーシップをとってやるのかということです。事業者と地域住民を繋げていくのも行政ですし、よくやったという形でわかってくれるのも行政ですし、そういうところでは、やっぱり地域に住んでる市民から見ると、行政が窓口であり、相談のところであり、一緒にやっていく全ての顔が見えるところなので、ここできついこともいっぱい出てきましたし、褒め言葉もいっぱい出ましたが、それが名張の今を物語っているものだと思っています。だから、いいところは伸ばさなければならぬので、ごみに対して、名張モデルって言えるべく、これだけ上手くいったのは、何かがあったんだと思います。つまり行政も地域住民も、さっきの井川さんの話は非常にヒントが多いのは、たぶんすごくコミュニケーションをとったんじゃないかという気がします。そこをこのエネルギーにおいてはどのようにやっていくのか、そこを早急に庁内でも考えていただいて、予算もロードマップも庁内の横断的なものも、企業との話し合いも事業者との話し合いも市民のやる気をどうやってまた更にアップさせるのか。そこを11月、まだ今幸いに初めの頃なので、ここ1ヶ月間本当に、庁内のトップを交えて話話を重ねていただいて、こうすればよくなるんじゃないかという提案をどんどんお願いいたします。上手くいけば最初おっしゃる通り1月にできるように我々も頑張りますし、それでもダメでも、例えば、よりいいものを作るためには時間が若干必要で年度末の3月までのぎりぎりのところまで頑張れば、可能性だってゼロではないので、是非ともよろしくお願いしたいと思います。これで、私の話を終わらせていただきますが、副会長は何かありますか。

## 副会長

今日の議論を聞かせていただいて、やはり皆さんおっしゃっているように、できるものはできる、できないものはできない。やっているものはやっている、やっていないものはやっていないと、きちんと示すと同時に共通認識をするのが大切だと思います。

最初に会長が名張市は環境に取り組んでいない、いやいや市民はやっていますと。でも、それはちゃんと市民はやっています、しかしあるものはやっていません。事業所の中でもやっているとこもあればやっていないものもあるということをしっかり示さないと伝わってこないで、それを示していただいて、またこの委員の中でもそういったものをお互いに意見を出し合う。

ごみ問題もやはり先駆的で、端から見て非常に分別もきちんとされていて、これはいい部分です。逆

に言うと、なんでこのいい部分をエネルギーで上手く生かしてないのかというのがあるので、特にごみ問題に関しては、誰がどういう風に取り組むかアクションプログラムの43ページに住民と事業者と行政がきちんと分かれているものが、エネルギーでは全然区別されてなくて、やっていません、やっています、だけになってしまっている。正にいい部分を生かして、エネルギー問題とか他のものに生かしていただければと思います。またこの場でも皆さんとそういった意見交換ができればと思いますので、次回以降もよろしくをお願いします。

会長

はい。もう30分以上オーバーして申し訳ないんですが、皆様方から特段ご意見なければ、事務局のほうに移したいと思いますが、よろしいでしょうか。

委員

これに関係する関係部署が少ないです。市の職員全員がまず、最低限の教育なり、特にこういう大切なものについては徹底していただきたい。環境対策室がやっているの、とこんな言い方をされると、初めて窓口に行くにしても、わからない人が市を訪れたときにそういう態度で言われたのでは、問題が大きい。最低限、会社で言えば社員教育をやっていただけないかないと、幹部の方たちはそういうのは会議で知っているが、末端までいっていないという現状でやっぱりやる気を見せていただかないと、我々も文句じゃなくやるために来てるんですから。

会長

はい、その通りです。

委員

よろしくお願ひしたいと思います。

会長

ありがとうございました。事務局特段アナウンスありますでしょうか。

事務局

ありがとうございました。平成25年度の第1回の快適環境審議会ということで、皆さん方には第1回目から4項目に渡る大きな項目についてご議論いただきました。そして、長時間に渡りまして、本当にありがとうございました。私ども今日いただいた意見につきましては、先ほどもいただいておりますとおり、できることとできないこと、直ちに見直さないといけないことと分けしながら、そしてまたいただいた意見の中で充分議論しながら、どこまでできるかできないかも内部で、庁内で議論しながら、考えていきたいと思っています。

次回については、また議論の中身も踏まえて、会長さんなりとご相談をさせていただきながら、お願ひをさせていただきたいと思っていますので、今後ともひとつよろしくお願ひいたします。ありがとうございました。

朴会長

ありがとうございました。これをもって第1回名張市快適環境審議会を終わらせていただきます。ご協力ありがとうございました。

委員

ありがとうございました。